

難民申請が増えていて、というニュースを耳にしました。世界各地では紛争や政治・宗教などに関する迫害が起こっています。こうした状況にある人々が、迫害や紛争、人権侵害などを逃れるため他の国に庇護を求める場合、これらの人々を難民と言います。日本もこうした人々を認定手続きを経て受け入れています。けれども、申請中や受け入れられた場合でも経済的な自立などには、困難も多いといわれています。

日本で職を得て働いている海外出身者や留学生から、素晴らしい経験ができてよかったという感想を聞いたことがあります。また、日本に暮らす人々から「海外出身の人たちと生活を共にする中で予想もしなかった貴重な体験ができ、見方が変わった」といった声も聞いたことがあります。海外出身の人々の来日が、多くのメリットをもたらしていることは、今更述べるまでもないことなのかもしれません。

ただ、海外出身の人々には悩みもあるようです。留学生が下宿やアパートを探すとき、家賃などでは折り合いがついても、貸し渋りに遭いやすいといわれています。また、日本で働いているある海外出身者は、仕事で夜遅く帰るとき

など、地元の人々に比べよく職務質問に会うような気がすると言っていました。海外出身の語学教師は日常生活を監視されている気がするときがあると話していました。スーパーなどへ買い物に行くと、購入品を見届けられているような気がするそうです。電車に乗ったり、買い物をしたりといった日常の動作が、常に誰かの視線にさらされているということは、とてもストレスのかかる状態ではないかと思います。

「この島に共に暮らす」

海に囲まれた日本では、海外出身の人々との交流にあまり慣れていません。けれども、異なる文化や背景をもつ人々が集まる地域では、社会が活性化され、新しい文化が生まれやすいということもよくいわれます。海外の人々が次々とやってくる時代となりました。制度や仕組みもこうした状況に合った内容に変えていく必要があるでしょうが、私たち一人一人も出身国や地域にとらわれ過ぎず、同じ人間として、お互いに正面から向き合っていくことができるようになればと思います。皆さんはいかが思われるでしょうか？

※お問い合わせは

人権啓発広報委員会

(☎880・6569) まで